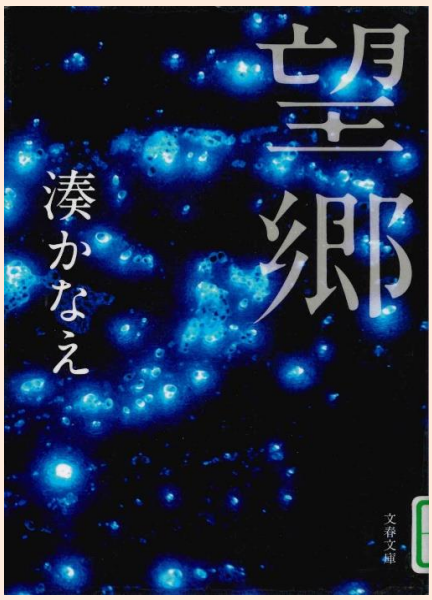
図書館員が選ぶこの一冊 100

『望郷』
文藝春秋　湊　かなえ／著

　東京で妻と息子と暮らす洋平のもとに、故郷・白綱島(しらつなじま)の同級生から一通のハガキが届く。それをきっかけに、小学6年生の秋、父が失踪し母と貧しく暮らしていた頃を回想する。当時、何かと親切にしてくれたおっさんがいたが、彼の目的はどうやら洋平の母親のようで…。第65回日本推理作家協会賞を受賞した「海の星」のほか、5つの短編が紡がれる。



　白綱島は架空の島。島ならではの閉塞感漂う中、登場人物の故郷に対する愛憎入り混じった思いや、その後の人生への影響を織り交ぜて進む物語は「望郷」へとつながっている。